

知識・技能を活用・発揮させながら主体的・協働的に取り組む 小学校音楽科の授業づくり

和歌山大学教育学部：菅 道子（研究代表） 上野 智子

和歌山大学教育学部附属小学校：北川 真里菜

1. 研究の趣旨と経過

本取組は、大学教員と小学校教員とが連携し、小学校音楽科の教材開発ならびに授業づくりについての実践的研究を行うことを目的として、協同研究を行うものである。今年度の取り組みは下記の通りである。

◆2019年11月3日 附属小学校教育研究発表会での授業実践と研究協議：2019年度附属小学校では、未来に生きて働く資質・能力の育成—探究力を育むカリキュラム・マネジメント—をテーマとし、知識の活用・発揮を促す教科横断的カリキュラムについて研究を進めてきた。音楽科においては、外国語の研究クラスと連携し、外国語や総合的な学習の時間（CHANGE）の学習などに関連づけて題材設定を行い、公開研究授業と研究協議を実施した。北川は、第4学年の和楽器（箏）を使った音楽づくりの教材開発と授業づくりを提案し、大学教員（菅・上野）は研究協議に参加した。

◆2019年11月18日 附属小学校での箏のゲストティーチャー授業：研究発表会の協議会においてお箏の伝統的な様式感について学ぶことの必要性が明らかになったことから、地歌箏曲家の菊田ニ美歌先生をゲストティーチャーとして招聘し、学校に招いて第4学年対象に授業をしていただいた。

実践についての概要は、以下に示す。

2. 第4学年を対象とした小学校音楽科の和楽器（箏）を使った音楽づくり授業 「音のおもてなし-五音音階をつかって、外国の人に和のよさを伝えよう-」（北川真里菜）

2-1. 研究の目的

グローバル化社会が進む近年、我が国や郷土の伝統音楽に親しみ、よさを味わえるようにしていくこと、生活や社会における音や音楽の働きや音楽文化についての関心や理解を深めていくことがより一層求められている。小学校学習指導要領（平成29年3月告示）においても、児童が「我が国や郷土の伝統音楽のよさを味わい、愛着をもつことができるよう工夫すること」と示され、和楽器を含む我が国や郷土の音楽の学習の充実を図る必要性が示された。

本研究においては、和楽器（箏）を用いた都節音階の楽曲の鑑賞・演奏・音楽づくりを通して、日本の五音音階に親しみ、日本音楽のよさを感じ取り、その価値を見出す子供の姿をめざして、知識・技能を活用・発揮させながら主体的・協働的に取り組める音楽づくりの工夫を試みた。

2-2. 研究方法

2-2-1. 知識・技能を活用・発揮させるためのカリキュラム・マネジメント

下記の3点に留意して授業づくりを行った。

- ① 前単元や前時までに得た知識・技能が本単元及び本時での学びで活用・発揮されるための、題材同時のつながりを意識した年間計画の作成と、音楽づくりにおいて活用・発揮させたい知識・技能の明確化
- ② 同一単元において、前時までに得た知識・技能が本時での学びで活用・発揮されるための、鑑賞と表現を往還する題材構成
- ③ 他教科での学びで得た知識・技能が音楽科での学びで活用・発揮されるための、教科横断のカリキュラム・デザイン

2-2-2. 主体性・協働性を引き出すためのしかけ

子供が主体的に音楽づくりに取り組めるよう、下記の点を工夫した。

- ① 題材のゴールを見通すための、他教科と関連させた「外国の人に和のよさを伝えよう」という単元を貫くめあての設定
- ② 「つくりたい」思いを醸成するための即興的な音楽づくりや、教師がつくった音楽を聴く時間の確保
- ③ 自己の学びを調整するための、振り返りの観点の提示

そして、仲間と協働的に音楽づくりに取り組めるよう、下記の点を工夫した。

- ① ペアやグループで1台（面）の楽器を使用し、「旋律」「合いの手」などの役割の設定
- ② 互いの表現を認め合い表現の幅を広げるための、つくる過程での他のペアやグループの作品の共有・価値付け

2-3. 授業の実際

第一時で初めて《さくらさくら》《うさぎ》を鑑賞した際は、「何この曲...古い」「怖い、不気味だ」など、日本の音楽を肯定的に受け止めている子供は極めて少なかった。

しかし、教師の「つかわれている音にしるしをつけてみて」という指示に対して、2つの楽曲が5つの音だけで構成できている五音音階でできていることを知ったのをきっかけに、一気に学習意欲が増した。

第二時には、箏（3面）とタブレットのバーチャル箏アプリ『iKoto HD』（販売元：GClue）を使った《さくらさくら》を演奏した。

第三時では、これまでの学びを生かして都節音階を使った「和のよさをつたえる」音楽を2人組でつくる音楽づくりの活動を行った。箏やタブレットは、1面（台）を両側から2人で使い、「旋律」と「合いの手」に分かれてペアでひとつの音楽をつくった。箏の音色に魅了され、これまでに獲得した知識・技能を活用しながらどの子も意欲的に音楽づくりに取り組む姿が見られた。

2-4. 研究協議を踏まえての授業の成果と課題

研究協議会では、以下のような意見をいただいた。

- ・他教科と関連させたカリキュラム・デザインを行い、単元を貫くめあて「外国の人に和のよさを伝えよう」を掲げたことで、子供たちが単元のゴールまで見通しながら主体的に学習に取り組めた。
- ・4月から積み重ねた学びを教室掲示として残すことで、子供たちが学んだことをいつでも振り返ることができ、活用・発揮へとつながった。
- ・ペア活動に「旋律」「合いの手」という役割を設けることで、協働的に音楽をつくることが可能となった。
- ・つくった音楽を可視化することで、視覚的に友達や自分のつくった作品を省みることができた。
- ・振り返りの観点「わ・か・や・ま」を提示してきたことで、めあてに即したうえでどのような観点で振り返ったのかを子供自身が自覚することができた。

一方、授業者並びに大学教員との研究協議の中で、自由な発想で音楽をつくることに加え、お箏の伝統的な様式感についても学ぶことでより深い学びへとつながるのではないかという意見がまとまり、つくった音楽の発表に向けて、当初は予定していなかった、ゲストティーチャーの先生を招いての授業を新たに設定することとなった。

2-5. ゲストティーチャーを招いての授業

ゲストティーチャーを招いての授業では、地歌箏曲家で野川流三絃継山流菊田家5代目の菊田二美歌(奥野二美)先生に協力いただき、箏を演奏する際の作法や所作について教えていただいた(図1)。大学から運んだ本物の箏が20面以上教室に並び、一人一人が本物の楽器に触れられることの価値を感じた。また、奥野先生の生演奏を聴かせていただいたり、つくった音楽の演奏を個別に指導していただいたりすることもでき、子供たちの「和のよさを多くの人に伝えたい」という思いがより強くなったのを感じた(図2)。



図1：授業の様子



図2：ゲストティーチャーへのお手紙

2-6. 授業実践を終えて

本実践では、研究協議会においていただいたご意見から、当初予定していなかったゲストティーチャーの授業を題材に組み込むなど、子供の実態に応じたカリキュラムの改善を行った。

子供の様子や実態から常にカリキュラムを見直し、マネジメントしていくことの大切さを感じた。

題材の最後に行った子供へのアンケートでは、「日本の音楽や音階について、授業前と比べて好きになりましたか。」という設問に対して、93%の子供が「とても好きになった」「好きになった」と肯定的に回答した。「好きではない」という回答はなかった。

本研究では、知識・技能を活用・発揮するためのカリキュラム・マネジメントの工夫、主体的・協働的な音楽づくりを促す授業のしかけを試みることで、図3・図4のような、日本やアジアの伝統音楽のよさを感じ取り、その価値を見出す子供の姿へとつなげることができた。

今後も、日本の未来を担う子供たちが、我が国の音楽文化に愛着をもつとともに他国の音楽文化を尊重し、我が国や郷土の音楽や諸外国の音楽のよさや面白さを感じ取れるよう、指導法や教材化について更に研究を深めていきたい。

本物のおことをはじめてひけたこがたのしかつたし、おこと曲を作ったことが「ベスキょう」になりました。

「ア、ヒト」が「ヒト」のことでは、ひつちひた、あらためて「和」のよさを感じた。

図3：題材の学習を終えて

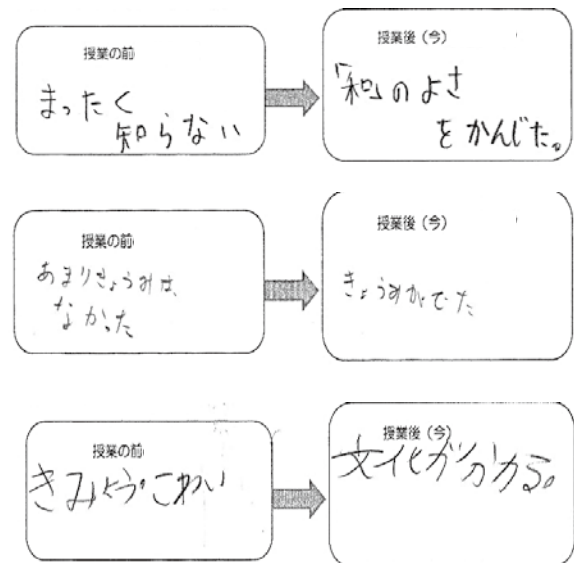


図4：日本の音楽に対するイメージや思いの変容について

3. 共同研究のまとめ

2019年度の共同研究では、小学校での研究授業、研究協議を通して、箏を使った音楽づくりを学んでいる子供たちに、箏の音楽文化そのものに触れ、体験してもらうことで学習が深まってくると考え、共同で新しく1時間の授業を設定し試みる事ができた。

授業までの準備時間が短かったため授業の流れなど反省点はあったものの、演奏家の凛とした佇まいや演奏の気迫に子供たちの心は惹きつけられおり、上述したように箏に対する興味関心と理解を深めることができていた。

次回、箏を使った音楽づくりをする際には、箏の音楽文化を知る授業を前半に設定し、箏の構造や奏法、音楽の魅力を知った上で、後半に箏を使った音楽づくりを設定するとより自然な流れで子供たちが学んでいけるのではないかという意見も出された。

今年度の連携事業では、小学校での教科横断的カリキュラムの研究のもと音楽科としては外国語活動、社会科、総合的な学習の時間との関連を図り、人的交流では附属小学校音楽科教員と音楽科教育の大学教員だけでなく、学級担任また地域の演奏家との連携も図ることもでき、実り多いものとなった。